

～目次～

【1】TKK活動

【2】加盟団体の活動

【3】行政、他団体の活動

【4】新コーナー「行ってきました、聞いてきました！」

— 12 医療圏活動紹介シリーズ ⑤ 南多摩医療圏 永生病院

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】TKK活動

* *

●TKK 第3回理事会 12/16 調布市市民プラザアクロス

次年度(2019年度)事業について、実践的アプローチ講習会・リハビリテーション講習会・医療及び家族相談会・慈恵第三病院相談支援・港区委託事業・他

<2019年度 高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会 >

・今年度は第1回 6/23(日)、第2回 9/29(日)の年2回開催となります

・会場が従来の慈恵大学から千代田区平河町の JA 共催ビルに変更になります

JA 共催ビル: 千代田区平河町 2-7-9) 東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」4番出口から徒歩2分

・受講料 2回一括の場合: お1人: 9000円(講習会資料代など) * 2回一括先行申し込みが、4/7(日)から始まります

各回ごとの場合: お1人: 5000円(講習会資料代など)

詳しくは、次から: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=219

<2019年度 TKK主催: 医療及び家族相談会>

A 第1回 4/21(日) 第3回 8/25(日) 第5回 11/24(日) A・会場は、東京都心身障害者福祉センター 12階

B 第2回 7/7(日) 第4回 10/27(日) 第6回 2/16(日) B・会場は、東京慈恵医科大学第三病院 2階

◇申し込み: kurakata@brain-tkk.com 090-1734-5114 (担当: 藏方) 事務局 Tel/Fax: 03-3408-3798

「高次脳機能障害に精通した医師と、困難を乗り越え様々な体験をしてきた TKK 役員(家族)達が相談に当たります。」

詳しくは、次から: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=220

<2019年度 港区主催(TKK 事業受託)「高次脳機能障害 相談会」> 2019年4月～2020年3月の毎月第3木曜日午後 港区立障害保健福祉センター 6階相談室

◇ 申込: 港区障害者福祉課精神障害者担当 TEL: 03-3578-2457

「港区立障害保健福祉センター 高次脳機能障害相談員(OT・ST・PSW)や、困難を乗り越え様々な体験をしてきた TKK 役員、家族会「みなと高次脳」役員が相談に当たります。」

詳しくは、次から: http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=221

【2】加盟団体等の活動

* *

●「就労に関する勉強会」 主催:ハイリハジュニア 1/19(土) 江戸川区内 区民会館
千葉リハビリテーションセンター:大塚恵美子先生 他に千葉リハスタッフ 2名、
言語聴覚士:鈴木 勉先生、ハイリハ東京代表:小澤京子さん、家族会参加者:約 30 名

==== 先日、1/19(土)に就労に関する勉強会がありました。AMは ジュニアで就労している当事者にいくつかの質問をし、当事者母から 就労までに至る経緯を話してもらいました。その後、大塚先生から就労に必要な要素(ADL 自立はもちろん、社会に必要なマナーなど)を説明していただきました。 =====ハイリハジュニア代表 穴澤芳子

●「交流 cafe コウジノー・コーナー」 主催:みなと高次脳 2/21(木) 午後、港区障害保健福祉センター

==== 会員も会員外も対象の不安や日頃の疑問、お喋りでストレス解消、近況報告など何でも話してもらおうという企画です。受傷から間もない方も、当事者から少しばかり解放された方も、離れている兄弟の支援を今後など、家族は困り感を、当事者は体験を話しに聞きに集まり盛り上がりました。認知リハを受けたいが探しても無いなどの発言をしたご家族に向けて、当事者の方は「色々調べて自分に合うサービスを探すんですよ。直ぐには丁度良いのは無いが色々情報を集めるんですよ。」とアドバイスをしてくれました。共通の生活の大変さを感じている方は大変さを共有されていました。当事者中心の生活をされている皆さんは話ができる場所を求めているなどつくづく感じました。普段からご家族も当事者もフラッと寄れるcafé がオープンしていたらと思いました。来年度も2回開催予定です。 =====みなと高次脳 代表 高井玲子

●つつじの会の2月の活動

==== 障害者スポーツの「ボッチャ」を区の障害者スポーツの担当に来ていただいてルール等説明していただき、試合とは別に工夫して出る方法も教えていただきました。今年から家族会のメに笑いヨガで当事者も家族も笑顔を絶やさず、心も体もリフレッシュの一年にしましょう!! =====つつじの会 代表 後関春美

○講演会「事例に学ぶ高次脳機能障害のマネージメント」 主催:つつじの会、後援:はるえ野

3/10(日) 午後1時30分~3時30分 タワーホール船堀 研修室(都営新宿線 船堀駅前) 講師:渡邊修先生

○お花見会 主催:いちごえ会 3/31(日)11:00~ 小金井市障害者福祉センター グリーンピア(小金井市緑町4-17-10 雨天の場合、グリーンピアで終日) 毎年恒例、グリーンピア/小金井公園で行う『第19回 お花見交流会』、会員・非会員問わずどなたでも参加できます。◇締切り:3/10(日)

詳しくは、次から: <https://ichigoe.org/archives/2493>

○岩手県大船渡市で、「第1回高次脳機能障害囲碁大会」 主催：基石海岸で囲碁まつり実行委員会

後援：日本棋院、東北福祉大学、日本高次脳機能障害友の会、いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ、ほっぷの森、どんまいネットみやぎ

5/12(日) 高次脳フォーラム：11:00～12:30、 囲碁大会：13:00～15:00

会場：キャッセン大船渡(岩手県大船渡市大船渡町字野々田 10-3) 囲碁大会の参加対象者：高次脳機能障害の方、失語症の方、はじめての方や初心者も大歓迎！

◇申し込み・問い合わせ Fax 022-797-8802 E-mail fshiroki@gmail.com(白木)〈緊急連絡先〉090-3123-6363(白木福次郎)

====実は私は夫の高次脳機能障害症状改善を期待して、夫婦で囲碁を始めました。2年前の2月のことです。夫は意欲が低いので、私が背中を押して囲碁をやらせてもらっています。頭を使う囲碁自体も効果ありそうですが、囲碁を囲んで色々な方と知り合い楽しい時間を持つことが、とても良いと思っています。詳しくは、ブログをご覧ください。チラシのイラストも柴本礼氏です。 <http://hibikoujichu.blog.jp/archives/2019-02-22.html> =====TKK 会員 柴本礼

【3】行政、他団体の活動

* *

●西多摩・高次脳機能障害関係講演会巡り =====あきる野「こーゆう」代表 藤原みどり

1)『「働きたい！」を叶える』 主催：西多摩高次脳機能障害支援センター 1/17

・医療機関の連携について 東京障害者職業センター多摩支所・屋富祖ひかる氏

・就労に向けた障害福祉サービス等の利用について～介護保険2号被保険者の事例から～ 都心障・守矢亜由美氏

その中で、最後に、SW、ケアマネ等に向けて介護保険優先の2号被保険者の方は障害福祉分野とつながり、情報共有してください、と締めくくられました。

2)『ICTは機械ではなく機会です』 主催：あきる野市障害者団体連絡協議会 2/6

結ライフコミュニケーション研究所・高橋宜盟氏は、言葉でのコミュニケーションが難しい方たちとICTを活用し一緒に語り・考え・コミュニケーションを深めようと講演され、iPadを使い実習しました。

3)『高次脳機能障害のお持ちの方の「働きたい！」をサポートする障害年金制度・公的保険』 主催：西多摩高次脳機能障害支援センター 2/14 社労士・松山純子氏のお話からは、制度全般と障害年金をもらいながら自分の状態に合った働き方をすることも選択肢のひとつであると学びました。

4)『高次脳機能障害の理解と支援～障害の有無によらず誰もが輝く社会を目指して～』 主催：あきる野市 2/18

三鷹高次脳機能障害研究所・関啓子先生よりPTG(トラウマ後の成長)を経験した人が示す5つの成長の説明を受け、勇気付けられました。

●高次脳機能障害研修会 主催：港区

1) 1/23 リーブラホール

====「高次脳機能障害のマネジメント」 慈恵医科大第三病院 渡邊修先生 当事者の生活支援、または就労支援の目的を効果的かつ能率的に達成するにはどうしたら良いかを、家族も含めた支援者・介護者に対して、その心構えやその対応、必要とされることについてのご講演でした。特に、「リハビリ」や「生活訓練・就労訓練」するにしても、「目標」を定めて管理することが大切であると説いておられました。「目標」も定めずに、ドリルやパズル、ゲーム、日記、パソコンなどの机上訓練をやたらしても、それで能力が飛躍的に回復することは無く、「障害の補い方を学習することに意味があり、日常生活へ

の応用を心がけることにある。」等々。また、対話や声かけについて具体的で分かりやすいノウハウの提供等々、即実行したくなる、学ぶべき内容が盛り沢山でした。

障害者就業・生活支援センター「TALANT」の野路先生の「地域で高次脳機能障害者が働くための仕組みをどう創るか」は、先生ご自身がご家族の中に障害のあるお子様をお持ちなだけに、障害者の就労や生活支援の事業に熱心に取り組んでおられ、その障害者支援事業についての詳細なご講演から、地域での障害者就労支援や雇用の現状をより深く知ることが出来ました。今回は港区主催の研修会でしたから、2次保健医療圏の区中央部(港・千代田・中央・文京・台東の5区)の地域の人口、障害者数、高次脳機能障害者数、高次脳機能障害者で就労できているはずの数、など詳しく知らべられ、(就労)支援の現状は？ どうなっているのか？ 等々、これら地域の自治体および地域に課題も提供されました。

====TKK 理事長 細見 みゑ

2) 1/30 リーブラホール

====「高次脳機能障害者の自動車運転」 東京都リハビリテーション病院 武原格先生

道路交通法の変遷や、運転再開に向けての厳正な適性検査とは？ 病気で一定の症状を呈していたため取り消された自動車免許が再取得出来る？ 等々、新しい知識が得られ大変勉強になりました。改善されて後遺症も比較的軽く、仕事として運転しなければ生活出来ない方を何とかしてあげたい、とこの研究を始められたとのこと。一般の人の自家用普通乗用車事故率は14.7%であるのに対して、運転再開を許され当事者の事故率は7%とのこと。しかし、病気の影響で正常な運転に支障が生じる恐れがあるにも関わらず、医師の診断書もなく、適性検査もしておらず、運転再開を許されてもおらずに運転して人を死傷させた場合は、危険運転致死傷罪が適応され、厳罰に処せられる。

「事例から考える就労支援について」みなと障がい者福祉事業団／就労支援センターかもめ 三上純子氏、当事者の綿上誠氏 40代でクモ膜下出血のため、身体手帳1級で重い高次脳機能障害が残った綿上さん。ご本人は家族のためにと一生懸命に努力をなさったことや、適切で篤い支援があれば、ここまで(一般会社の事務職)いけるのか、と感銘を受けました。就労復帰は倒れてから6年目のこととか。まだまだお若い。きっと、もっともっと改善なさることでしょう。

====TKK 理事長 細見 みゑ

●「脳を損傷した方のコミュニケーション障害」～認知コミュニケーション障害の基礎知識～

主催：調布市社会福祉協議会 2/13 午後、調布市総合福祉センター

講師：帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科 廣實真弓教授

====高次脳機能障害者にも見られる認知コミュニケーション障害に対応できるリハビリがある！！とのご講演で、事例(しゃべりすぎる。まとまりがない等)を通してその対応策を示されました。脳外傷、脳血管障害、脳腫瘍、脳炎、脳症、心停止等様々な原因によって起こる後天性脳損傷後の認知コミュニケーション障害の発症率は75%を超えるそうで、コミュニケーションに必要とされる基本的なシステム(声、アクセス、流暢性、認知、思考の体系化)の障害に関連しているそうです。【後天性脳損傷者のための認知コミュニケーション(CCCABI)日本語版 著者:Sheila MacDonald SLP(C) (2015.2019) 翻訳:廣實真弓 より】 マクドナルド氏著のチェックリスト(CCCABI)は、言語聴覚士用のものですが、本人・家族・支援者がチェックをつけて活用するのも良いそうです。ただし、この結果を基に診断はできません。困っていることを ST に相談するためのツールだそうです。CCCABI日本語版は数週間後に公開予定とのことですので、メルマガ次号にて、チェックリストを開けるようにさせていただきます。チェックリストに載っているような症状が見られ、認知コミュニケーション障害ではないか？と思ったら主治医にお願いし、STに相談してみたいか？がでしょうか。

====TKK 理事 伊地山 敏

●東京都 平成 30 年度第 3 回 高次脳機能障害者相談支援研修会

精神科からみた高次脳機能障害～精神科との上手な付き合い方～、2/18 午後、都研修センター

・講演:「精神科から見た高次脳機能障害」 埼玉県高次脳機能障害者支援センター長 医師 先崎 章氏

・取組報告:

- 1 「地域ケアにおける精神科デイケア活用の手掛かり」 社団碧水会 長谷川病院 デイケア科長 佐々木 真一氏
- 2 「東京都中部総合精神保健福祉センターの取組」 中部総合精神保健福祉センター 生活訓練科長 小松 美和氏

詳細は次から: <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/kojino/seminar.html>

==== 精神科から見た高次脳機能障害、精神科との付き合い方という魅力的なタイトルであったためか、定員いっぱいの 180 名の参加者でした。講演の中では社会的行動障害で精神科に受診させたほうがよいのは(精神科が診るのは)、高次脳機能障害と統合失調症の違い等の説明が新鮮でした。取組報告では精神科デイケアで高次脳機能障害者が混じって活動している事例、また中総センターでは CODY プロジェクトとして 2007 年から精神科デイケアを行い大きな成果を上げていることが報告された。====TKK 理事 矢野 久喜

●平成 30 年度 第 2 回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

「高次脳機能障害支援...全国会議&シンポジウム」 主催: 国リハ、2/22 午前 大手町サンケイプラザ

- ・本年度の支援普及事業実施状況、次年度同事業実施計画...国リハ及び全国 8 ブロックからの報告
- ・次年度の支援普及事業 運営方針...厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部

「支援コーディネーター全国会議・シンポジウム」 同日午後

・講演: アンガーマネジメント(高次脳機能障害就労・復職支援) 厚地脳神経外科病院 PS 一地知大亮氏

・実績報告会; 福岡県の取り組み 福岡県障がい者リハビリテーションセンター

① 支援者の立場から: 高齢・障害・求職者雇用支援機構: 土屋知子氏 ② 当事者の立場から: みなと高次脳: 高井玲子氏
詳細は次から::: http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/event/

==== 午前中の各ブロックからの説明では、研修・講演会がより活発に行われている、各機関間のネットワーク化が進んでいると感じられた。重点活動、重要課題として報告で多く出され目立ったキーワードは、回復期リハビリ病院・福祉施設への研修、小児の高次脳機能障害、診断ができる、診断書が書ける医師・医療機関の要望、車の運転再開問題であった。午後の支援コーディネーター全国会議・シンポジウムではアンガーマネジメントの有効性を知った。福岡県の報告では、運転再開問題に専門に取り組む組織として 2017 年に「福岡県安全運転医療連絡会議」が設置されたこと、障がい者リハビリテーションセンターでは肢体不自由、発達障害、高次脳機能障害等のさまざまな障害を持つ方々約 100 名が各種プログラムを共有しながら活動していること、高次脳機能障害・発達障害を専門とする医師が週 1 回専門外来を実施し、各種相談や診断・診断書の作成・リハを行っており、恵まれたリハセンターであると感じた。====TKK 理事 矢野 久喜

●「北多摩南部医療圏 高次脳機能障害地域支援研修会」 主催: 慈恵医科大第三病院リハビリテーション科

2/24、調布市総合福祉センター2 階 201~203 会議室

講演1 てんかんの診断と治療 東京医科歯科大学 脳神経外科 稲次 基希氏

講演2 高次脳機能障害を持つ方への就労支援 ~「働く」を応援する~

世田谷区障害者就労支援センター しごとねっと 松田 由紀子氏

事例検討 記憶が特異的に障害を受けた脳腫瘍 症例に対するリハビリテーション治療

東京慈恵会医科大学附属第三病院 本田 有正氏

====「てんかん」は、行政上の高次脳機能障害(記憶・注意・遂行機能・社会的行動障害)ではないが、脳を損傷した高次脳機能障害者の中には、この後遺症で苦しむ人が多い。「てんかん」は、転倒場所やその程度により、命や障害をさらに重くする危険をはらみ、そのため一生不安な毎日を送らねばならない。稲次先生のご講演「てんかんの診断と治療」は、瞠目する内容でした。たくさんの有益なお話の中の一つ…「発作も起こしていないのにてんかん予防のために、副作用の多い抗てんかん薬を服用させ続けるなんてナンセンス。2週間、いや1週間なかったら、私は薬を出しません。」…ええっ!？です。もしも発作が起きたら?の恐怖故に、我が家の息子も20数年間、予防のために飲み続けています。減らすチャンス、切るチャンスが難しく、長年起きないので一寸だけ減らしたら発作が再燃したという方もいます。受傷から10年後に初めて、てんかん発作が起きたという方もいます。予防のために抗てんかん薬を服用し続けている方も多いからです。質疑応答も非常に盛んでした。もっと聞きたい、もっと勉強したいご講演でした。====TKK 理事長 細見 みゑ

●「学習会 高次脳機能障害～周囲の理解を得るために家族会ができること～」 主催:つぼみの会・練馬区社協
2/25(月)午後、石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ、講師:足立さくら会 瀧脇美佐子氏

====本学習会にて、NPO法人足立さくら会理事長 瀧脇氏は、ご自身の体験と家族会の立ち上げから現在までの歩み、その意義について温かい雰囲気語り、問いかけて下さり、参加された当事者・家族・福祉関係者などが熱心に耳を傾けました。家族会だからできることについてお話しされた後、現在の情報社会の中で、それでも家族会は必要ですか?との問いかけに、家族の多くは、つぼみの会での体験の共有や情報交換などが有益だったとその必要性を述べ、又、地域に根差した家族会だからできることとして、活動し易い・すぐに行える・行政に伝える役目、連携・同じ地域の情報が入る等、その意義も話されました。「つぼみの会」は、社協が運営する石神井障害者地域生活支援センター「ういんぐ」のプログラムの一環として実施している家族の集いです。練馬の自立した家族会発足のために必要なヒントを沢山頂きました。

====練馬高次脳機能障害者支援協議会会員・つぼみの会会員 保坂勝子

○「高次脳機能障害者と社会復帰」 主催:武蔵村山障害福祉課 2/28(木)午後2時～午後4時 武蔵村山市民総合センター集会室 講師:武蔵村山病院リハビリテーションセンター心理士 清水亜也氏
◇問合せ:武蔵村山障害福祉課 042-590-1185

○「多摩マインドフルコンサート2019」 共催:東京慈恵会医科大学附属第三病院リハ科・調布市社会福祉協議会
3/3(日) 13:30～15:30 調布市総合福祉センター(調布市小島町2-47-1 調布駅下車南側 徒歩2分)
◇申込先:障害者地域活動支援センター ドルチェ Tel:042-490-6675 Fax:042-444-6606 mail: dolce@ccsw.or.jp

詳細は次から: http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=210

○市民福祉講座「夫がくも膜下出血で倒れた時 高次脳機能障害者が家族の支えで社会復帰を果たすまで ～ともに支え、ともに生きる社会を目指して～」 講師:柴本礼氏 国分寺市障害者センター 地域活動支援センターつばさ
3/10(日)14時～16時 国分寺市障害者センター2階 多目的室

◇お申込・お問合せ:地域活動支援センターつばさ Tel 042-321-1136 Fax 042-321-1207 定員:50名 締切り:3/8(金)
詳細は次から: <http://hibikoujichu.blog.jp/archives/2019-02-20.html>

○第 125 回 いたばしボランティア・市民活動フォーラム「高次脳機能障がいとのつきあい方を考える」 共催：板橋区教育委員会(生涯学習課大原生涯学習センター)、特定非営利活動法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし。企画運営：中途障害者と家族の会 のびるの会、特定非営利活動法人 みんなのセンターおむすび。協力：特定非営利活動法人 東京高次脳機能障害協議会、板橋区地域自立支援協議会高次脳機能障がい部会。

3/10(日)13時30分～16時00分(受付/13時00分)。仲宿地域センター 3階レクホール 板橋区氷川町12番10号(最寄駅 都営三田線板橋区役所前駅 A3 出口 徒歩7分)

◇問い合わせ みんなのセンターおむすび 電話 03-3579-7059

詳しくは、下記をクリックしてご覧ください。

<http://omusubi.or.jp/2019/01/22/%E9%AB%98%E6%AC%A1%E8%84%B3%E6%A9%9F%E8%83%BD%E9%9A%9C%E3%81%8C%E3%81%84%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A0%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B/>

○「子どもの高次脳機能障害 —家族の想う支援のあり方—」主催：早稲田大学校友会 調布稲門会 ボランティア・ネットワーク Bor'n 3/16(土)14:00～15:30 調布市文化会館 たづくり 8階

講師 中村 千穂 氏 高次脳機能障害を持つ家族の会ハイリハキッズ 代表

費用 500円(参加費) * 学生は無料

中村千穂氏 プロフィール

石川県白山市出身。御長男が、3歳11カ月の時に集団食中毒から急性脳症、脳内出血、脳梗塞を発症。高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会「ハイリハキッズ」(2007年発足)の代表として、昨年だけでも、福井、長崎、富山、京都、と全国を飛び回り活動や支援について多数講演をされています。

・「高次脳機能障害」とは？ 聞きなれない言葉と思われる方も多いと思います。事故によって、また、脳血管の疾患などによって、脳に外傷を受けた際に、様々な症状がおこることがあります。知覚や認知、感情にも影響を及ぼすことがあります。子どもの時に、こういった外傷を脳に受けると、発達の中で様々な困難が生じます。なかなか理解されにくい、「高次脳機能障害」。中村氏には、これから社会に巣立っていくハイリハキッズのご家族の立場から、街中でどんな支援が必要なのか、分かりやすくお話しいたします。

◇ 問い合わせ・申込み：坊野 美代子 TEL：090-2174-0187 Eメール：m-bouno@mti.biglobe.ne.jp

○国交省のガイドラインが改訂され、高次脳機能障害に関する記載がなされました。

国交省ならびにエコモ財団にて公開されている下記ガイドラインが2018年7月に改訂

・バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編)

・バリアフリー整備ガイドライン(車両等編)

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_mn_000001.html

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/guideline/guideline_top.html

＜国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長 中山剛のコメント＞

当該のガイドラインでは、「本整備ガイドラインにおける対象者」として「高次脳機能障害者」が明記され、

- ・半側空間無視や注意障害がある場合、プラットホームを移動する際に転落や人やものにぶつかる危険がある
- ・注意障害などにより、必要な情報を見つけるのが難しいことがある
- ・失語や失認などにより、案内や表示を見ても内容が理解できないことがある
- ・記憶障害や地誌的障害などにより、道順や経路、目印が覚えられないことがある

など、高次脳機能障害(関連の失語症を含む)の方々のニーズ、困った例なども記載されるようになりました。

【4】行ってきました、聞いてきました！ -12 医療圏活動紹介 **

東京都高次脳機能障害支援普及事業における各 12 医療圏で実施している活動及び事業の紹介シリーズ。

⑤ 南多摩医療圏(八王子市・町田市・日野市・多摩市・稲城市)

拠点病院: 永生病院

事業開始: 平成25年度

＜報告者: TKK 理事 田辺和子、監事 高橋俊夫＞

地域の特徴／支援施設等

南多摩圏域は八王子市・町田市・日野市・多摩市・稲城市の 5 市で構成される。東京都の中で 2 番目に面積が大きく、人口も 140 万人と区西北部に次いで 2 番目に多い地域。各市の相談窓口(高次脳機能障害支援促進事業受託機関)との連携を密に取ることで圏域内の相談に応じている。

主な活動／業績

■ 連絡会の開催・各市の連絡会への参加

圏域連絡会(年1回)、協力施設連絡会(年12回)の開催の他、各市の相談窓口を主催に開催される連絡会にも参加し、情報交換を行っている。

■ 相談対応

電話相談の他、事業所への見学同行や自宅訪問も必要に応じて実施。平成28年度は延329件の相談が寄せられた。

■ 講演会・症例検討会

支援者向けの講習会やワークショップを年1回、当事者を主体としたイベントを年1回、症例検討会を協力施設連絡会と合同開催で年12回程

■ 家族会支援

各市の家族会との情報交換やアドバイス等。八王子市の家族会立ち上げを支援し、平成29年5月にはちおうじ高次脳機能障害者家族会「はっちゃん」が設立された。

■ 支援センターの PR、情報発信

南多摩高次脳機能障害支援センターのパンフレットやリーフレットを作成し関係機関、施設に配布した。ホームページでは支援センターの存在・役割そして講演会・講習会や最新情報、トピックスを発信。 HP: <http://www.m-kojino.com/>

TKK 講演会で講師を務められている江村俊平氏



【平成31年1月25日、永生病院にて】

【今までの経緯】

永生病院では平成25年に「専門的リハビリテーションの充実」事業を受託することとなり、南多摩圏域の拠点病院として活動を始めました。相談件数は初年度が11件、2年目が10件と非常に少なく、まずは地域に高次脳機能障害や本事業の普及啓発を図ることからスタートすることとなりました。5年が経過した今では相談件数が300件を超えており、南多摩地域に高次脳機能障害の相談体制が整ってきたことを実感しています。



江村俊平氏と西村 彩氏

【活動の現状】

① 市への相談窓口設置に向けた働きかけ

事業をスタートした平成25年の時点では、高次脳機能障害の相談窓口（東京都区市町村高次脳機能障害支援促進事業受託機関）のある自治体は町田市と稲城市に限られていました。南多摩圏域は面積が非常に広く、永生病院から最も遠方の稲城市には車で1時間近くかかってしまいます。圏域内全ての医療機関や社会資源を把握することは困難であるため、各市に相談窓口が設置されることは非常に重要なことでした。そこで圏域の連絡会などを通して行政や家族会への働きかけと助言を行い、平成27年度に多摩市、平成28年度に日野市、平成29年度には八王子市で支援促進事業（相談窓口）が開始されました。

②各市の家族会支援と八王子市の家族会設立支援

各市の家族会への見学、活動のアドバイスや情報交換を行ってきました。圏域内で唯一家族会のなかった八王子市にも、家族会を立ち上げようという機運が高まり、平成28年度から家族会立ち上げの支援を行い、現在も運営のお手伝いをしています。

③相談対応（個別相談・間接相談）

事業をスタートした平成25年度の相談件数は11件でしたが、平成28年度は329件まで増加しています。その内260件は医療関係者やケアマネージャー等支援者からの間接相談でした。各市に相談窓口が開設されたこともあり、支援者からの相談（特に支援が困難なケースの相談）が増えている印象があります。専門的リハビリテーションの充実事業で個別ケースの相談対応は必須ではありませんが、永生会が地域に根差した取り組みに力を入れていることもあり、言語聴覚士1名と作業療法士2名が相談対応に当たっています。必要に応じて相談のあった施設やご自宅まで伺って（アウトリーチ）相談に乗るようにしています。

④月1回協力施設連絡会を実施

南多摩圏域が非常に広いということもあり、情報共有や情報交換のために多摩市の天本病院で月1回連絡会を開催しています。参加施設は南多摩圏域の医療機関4施設のリハスタッフと各市の相談窓口（支援促進事業事業受託機関）の担当で総勢20名程度になります。この連絡会を通して、南多摩地域の顔の見える関係がつけられ、相談や情報交換がスムーズになっている実感があります。

相談を呼びかけるリーフレット



【今後の展望】

今年度八王子市に相談窓口が開設されたことで、全5市に相談窓口と家族会が揃ったこととなります。今後は各市の相談窓口との連携を密に取っていく他、5市合同のイベントを充実させていきたいと思っています。各市の家族会の会員は20名～30名程度と少なく、当事者の方は似た境遇の方と出会って話す機会が作りにくい現状があります。5市合同でのイベントを通して当事者同士や家族会同士の交流も充実させていきたいと思っています。新たな取り組みとしては平成 29 年度から No Problem(脳損傷)in 南多摩という当事者主体のイベントを開催するようになりました。

地域資源の開拓に関しては、他圏域に倣って、高次脳機能障害者支援マップの作成に向けて準備をしており、来年度にはお披露目できると思います。

今後の課題は、圏域内に高次脳機能障害の方を主たる対象とした通所先を確保することです。今のところ、南多摩圏域の中には高次脳機能障害に特化した事業所はなく、他圏域まで通っていただいておりますが、公共交通機関の利用が難しい方の場合断念せざるを得ないことも多く、適切な支援につながらないこともある現状です。いち早く、圏域の中に高次脳機能障害への対応に特化した事業所が設立されるよう、支援センターとしても現在各方面への働きかけを行っております。

以上